

大妻女大家政 ○松山容子、大妻女大短大 笹本信子、東京家政学院大 川上梅
大妻女大人間生活科研 近藤四郎、眞家生

目的：現代では、ファッション情報は各種のメディアにより伝播し、既製服は国際的な商品となっている。それにともない、サイズはもとよりパターンやデザインなど衣服の様々な観点から、体型の民族的な差異に関心が高まっているが、この観点からのデータは限られた諸国でしか得られない。我々は1992年3月、タイ王国チェンマイ市およびその周辺地域で、人々の衣生活と体型を調査する機会に恵まれ、結果の一部は既に報告した。本研究では、身体プロポーションを単写真によってとらえ、日本とタイの高校生間で比較検討した。

方法：被検者は東京都内に住む日本人高校生男子50名女子52名と、チェンマイ市及びその周辺に住むタイ人高校生男子82名女子112名で、それぞれについて、前面、背面、右側面の単写真を生体学的方法に準じて撮影した。背面写真と側面写真に写った基準点マークと身体のシルエット上の点の合計21点について、座標値をディジタイザで入力し、高さ11項目、幅3項目および角度3項目を求め、プロポーションを日本とタイ両群の間で比較した。

主な結果：頭身示数では、タイの高校生は男女ともに日本の高校生を下回る。下肢長にはほぼ対応する転子外側点高の身長比では、タイが男女ともに日本を上回る。肩部幅の身長に対する比では、タイ女子は日本女子を下回る。肩傾斜角度ではタイは男女ともに日本よりも撫で肩の傾向を示す。これらの結果は、ともにアジア人ではあるが、より背が高く、胴が長く、肩幅の広い日本人、小柄で下肢が長く、肩幅の狭いタイ人という両群のプロポーションの違いを示唆した。